

令和 7 年度「～国分寺エリアの「野川整備計画」の早期実現の気運醸成のため～
「野川源流スクール」開講事業（自慢できる源流のまちへ）」報告動画

【スライド1】

特定非営利活動法人まちづくりサポート国分寺でございます。以下まちサポと省略いたします。

令和 7 年度公募型協働事業 ～国分寺エリアの「野川整備計画」の早期実現の気運醸成のため～「野川源流スクール」開講事業（自慢できる源流のまちへ）を受託し、実施いたしました。

【スライド2】

I、事業の概要。対象は「ジュニア」、「シニア」に分れます。

まず、「ジュニア」について。実施は小学校4校。4年生の一日授業です。

4/22 第四小学校 参加 166 人

5/22 第七小学校 参加 94 人

11/21 第三小学校 参加 138 人

12/5 第一小学校 参加 81 人

参加者合計 479 人

この中で、5/22 に実施いたしました第七小学校を取り上げ説明いたします。

【スライド3】

8:40 から始まる1時限目では「教本」を基に野川の成り立ち、国分寺崖線や湧水との関り、そして4年生にとって難しい言葉、「湧水」「都市化の進展」「土地の保水力」なども分かり易く説明します。

2時限～4時限は「野川」散策です。もみじ橋から鞍尾根橋まで。この間で現在の姿である「コンクリート三面張り」の現状を見、また「野川」がたびたび溢水していたころの名残である「防水板」なども見、東京経済大学内の「新次郎池」で湧水を体験します。鞍骨坂で国分寺崖線の急坂を感じながら鞍尾根橋上で左右、国分寺市側と小金井市側の川の差を実感します。

そのあと水辺（小金井市）へ下り、カモやサギを見たり、貝殻を拾ったり、小さな魚を見つけて喜んだり、と自然豊かな川を楽しみます。往復、約1時間半の行程です。午後の5・6時限は、班（4～5人）に分れ、散策した川を中心にしたガリバー地図（模造紙に印刷された国分寺市の野川地図）に各自が感じたこと、印象に残ったことなどをポストイットに記入し、貼付していきます。

その後、班ごとに前に出て地図を指しながら一人ずつの発表です。

次に検定、20 問のテストとなります。これは自己採点、講師が解答を読み上げながら、今日の授業の定着を目指します。そして質疑応答、感想を書いて、15:10 に授業を終了します。

他 3 校でも散策ルートは異なりますが、授業内容は同じです。

【スライド4】

次に「シニア」について。

9/20(土) 参加 21 人

11/30(日) 参加 14 人

参加合計 35 人

ボランティアガイド登録者 13 人

【スライド5】

シニア講座は 9:45 から。「教本」を使って野川の成り立ちから現在までの変遷、野川での市民活動の動き、「野川流域河川整備計画」について詳しく説明します。湧水を水源とする都市河川である野川の貴重な存在意義を認識していきます。

その後、野川の生態系について長年観察研究している講師による現在の野川流域の動植物についての話、実際に生息しているカメ、カナヘビ、ドジョウ、モツゴなどを実際に手に取り、見ながら豊かな生態系と外来種への危機を知ります。

この後、検定を実施します。

これで午前中の講座が終了、午後からは野川散策です。

【スライド6】

13:00 に集合し、4~5 人を 1 グループとして散策に出発、まちサポ会員が説明しながら進めます。

まず、「野川上流端」でトンネルをくぐって大池から流れ出る野川を見、東京経済大学内の新次郎池とその周辺の豊かな再生された自然から湧水が流れる様を見ます。

そして最後は鞍尾根橋上で市境の川の違いを確認した後、水辺へ降り、多自然川づくりの良さを再確認します。

その後、質疑応答と感想を書いて 15:00 前に解散となります。

【スライド7】

Ⅱ 事業の成果について。まず「ジュニア」から。

児童の感想からは、ただ川として認識していたものが、「野川」として再認識された様子、国分寺市側と小金井市側の違いについての驚き、ぜひ国分寺市の野川も小金井市側と同じような自然で美しい川にしたいという思いが多くみられました。

中には、家の人にも話したいとか、自分にもできることがあればやりたいなどという感想もあり手ごたえを実感しました。

【スライド8】

つぎに「シニア」です。教本、講師への評価は高く、散策を通して国分寺市の野川の現状や課題を把握しました。

感想では、国分寺側の整備促進を望む人が大半で、自身もできることがあれば寄与したいという意思表示もありました。

参加者の中からボランティアガイドへの登録も進み、「野川の整備計画」の早期実現への気運醸成がはかられました。

【スライド9】

Ⅲ波及効果。「ジュニア」から。

昨年11/5(水)に開催された市教育委員会主催のコミュニティ・スクールフォーラムにおいて実施校の第七小学校が“野川未来プロジェクト”～野川の豊かな自然ときれいな水を、私たちがつなぎ、守っていこう～という单元名で公開授業を行いました。

「源流スクール」をもとにした課題設定、情報収集、整理・分析、発言・実行など段階に応じた学習活動の結果が発表されました。

【スライド10】

また、1/30(金)に開催された令和6・7年度市教育委員会研究協力校研究発表会において第一小学校が研究協力校として、公開授業を行いました。

テーマは「国分寺市の良さを見つけよう～野川」で源流スクールをベースにしたグループでの調べ学習による野川の現状課題について発表しました。研究主題であった～国分寺市に親しみ、学び、関わる活動を通して～にも即して、児童たちが楽しみながら学ぶ「野川源流スクール」が国分寺学の推進にも大きく寄与していることが認識されました。

【スライド11】

つぎに「シニア」です。ボランティアガイドへの活用も緒に就き、今後のさらなる活用が重要であると認識しています。

個別には 11/26 に行われた「ミズベリングフォーラム」～野川再生の作戦会議～に参加する人もありました。

【スライド 12】

Ⅳ、今後の課題。「ジュニア」での今後の課題は対象校の拡大です。

野川に遠いため散策のルートと時間、すなわち移動手段が課題です。しかし遠いからこそ、野川の存在自体を知らない、源流があることを知らない児童が多く存在していることも事実です。

ここを踏まえて市の財産である野川を知り、そして多自然川づくりが実現すれば豊かな国分寺市への希望が生まれます。

【スライド 13】

「シニア」では、すすんでいないボランティアガイドの活用が大きな課題です。

「野川源流スクール」の担い手として、気運醸成の担い手として、活用を進める必要があります。

改めてボランティアガイドの意向を十分に把握し、組織として育成、活動できる体制を整えていきたいと考えています。

【スライド 14】

※音声なし